

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2772402588
法人名	医療法人中屋覚志会
事業所名	グループホームくのみ坂
所在地	大阪市枚方市津田南町2丁目40番20号 (電話) 072-808-0701

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	2007年11月20日	評価確定日	2008年1月9日

## 【情報提供票より】(19年 10月 14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 16 人
職員数	20 人	常勤 14人, 非常勤 6人, 常勤換算 18人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 6,000 円		

### (4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	16名	男性 5名	女性 11名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	7名	要介護4	4名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 86歳	最低 76歳	最高 97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人中屋覚志会 津田病院 岡田歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR津田駅から住宅街を通り抜けたところ、ほのぼのとした環境の中にあり、季節を感じながら地域と共に暮らすことを支援しているホームです。職員、入居者ともに明るく活気があり、入居者の思いを聞きながら毎日散歩に行ったり、レクリエーションをしたり楽しみのある生活を支援しています。家族に面会に来てもらったり、年に一度のアンケートを行ったりしながら意向を聞き、希望に応えながら信頼関係を築いています。また、一日三回の掃除が隅々まで行き届いており、衛生的で更に居心地の良い環境作りができています。更に法人の母体が医療法人であり、病院等との連携がよくできており、健康管理面でも安心できるホームです。
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、特に大きな改善項目はありませんでしたが、評価を会議等で振り返り、サービスの見直しを行っています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価に向けては、各ユニットのリーダーと計画作成担当者が主となり、職員の意見を取りまとめ、管理者、法人の幹部とも相談し自己評価を行っています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員、地域包括センター、地域の住人代表、家族等の参加があり、ホームの日常の報告や現在取り組んでいるターミナルケアについて報告をし、ホームを知ってもらうことを中心に会議を開催しています。また、参加者からの意見や質問を聞く機会にもなっています。地域包括センターからの提案があり、近隣のグループホームとの会合が開かれる予定です。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	訪問しやすい環境にも配慮し、全員の入居者の家族の面会があります。直接コミュニケーションをとったり、ホームの季刊誌の発行、月に一度写真を郵送してホームでの生活の様子を伝えています。意見箱の設置、苦情相談窓口の掲示、面会時に直接意向を聞くなどの取組みを行っています。年に一度の家族会には、全員の家族の出席があったり、運営推進会議の出席など意見交換する機会があります。意見等を受けて、ホームではその都度検討し、対応しています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の老人会の集まりに参加したり、ホームの夏祭りには地域の住人に来てもらったり、交流があります。近隣の保育園の園児の定期的な訪問や近隣の農家から採れたての野菜をいただくなど、行き来が日常的にあります。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	改めて地域の中でという言葉は使っていませんが、「自然のままに」というホーム独自の理念を掲げています。入居前の生活が地域の中で続けることができるようにとの思いを込められた理念です。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に掲示している他に、パンフレット、季刊誌の名前にする等、常に意識して法人内外に向けて発信しています。特にケア会議の時には、理念を基に話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会の集まりに参加したり、ホームの夏祭りには地域の住人に来てもらったり、交流があります。近隣の保育園の園児の定期的な訪問や近隣の農家から採れたての野菜をいただくなど、行き来が日常的にあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム独自の自己評価表を作成しており、定期的に評価し、改善努力をしています。また、今回の評価に向けては、各ユニットのリーダーと計画作成担当者が主となり、職員の意見を取りまとめ、管理者、法人の幹部とも相談し自己評価を行っています。前回、特に大きな改善項目はありませんでしたが、評価を会議等で振り返り、サービスの見直しを行っています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター、地域の住人代表、家族等の参加があり、ホームの日常の報告や現在取り組んでいるターミナルケアについて報告をし、ホームを知ってもらうことを中心に会議を開催しています。また、参加者からの意見や質問を聞く機会にもなっています。地域包括センターからの提案があり、近隣のグループホームとの会合が開かれる予定です。		

グループホームくにみ坂

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者とは、会合のときに顔を合わせるほか、介護相談員の受け入れなどの時にも話をする機会があります。また、法人と行政との行き来で、情報の交換を行っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	自由に来て頂きやすいように面会時間を定めておらず、訪問しやすい環境にも配慮しています。全員の入居者の家族の面会があり、その時に直接コミュニケーションをとり、ホームでの生活の様子を伝えています。また、ホームの季刊誌「自然のままに」を発行したり、月に一度写真を郵送しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情相談窓口の掲示、面会時に直接意向を聞くなどの取組みがあります。年に一度の家族会には、全員の家族の出席があったり、運営推進会議の出席など意見を交換する機会があります。意見を受けて、ホームではその都度検討し、対応しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動や退職はありますが、長く定着している職員も多く、馴染みの関係が築けている職員が中心となってダメージの少ないように配慮しています。採用時には、その職員の適正を考慮したり、入職後にはできるだけ接する時間が多くなるように配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が新たな資格を取るためのサポート、適時に外部研修を受けることができるような体制が整えられています。また、外部研修受講後は、報告書を作成し会議時に伝達研修を行っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議で知り合った同業者との交流があり、情報交換を行っています。また、今後は定期的に市内のグループホームの会合を持って行く計画を立てています。	○	グループホーム同士の情報交換、職員同士の交換研修などを行い、更にホームでのサービスの質を高めていくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず本人にホームに来てもらったり、家族と充分に話し合いながらサービスを開始しています。その人に合わせ、日中のみから過ごしてもらい、徐々に泊まりの日を増やしていくなど、少しずつ馴染んでいけるよう取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理を教えてもらったり、一緒に家事を行ったり、以前の職業などの生活歴を踏まえて、職員と共に一緒に過ごすことを大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションやケア会議の中から、本人の意向を把握できるよう話し合っています。また、一部センター方式を取り入れ記録に残し、職員間で共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意向を基に、ケア会議で話し合い介護計画が立てられています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングを行い、3ヶ月に一度の見直しを行っています。また、随時カンファレンスを行っており、入居者の状況の変化も捉えやすく、状況に応じて介護計画の見直しも行っています。		

グループホームくにみ坂

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の希望に合わせて、デイケアに通所する支援や馴染みの美容院へ通うなど法人全体で支援しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談し、かかりつけ医を決めています。法人が医療法人ということもあり、提携医を希望される入居者も多く、2週間に一度の往診を受けています。必要に応じて歯科受診の同行も行っています。また、同法人から看護師も頻繁に来所されており、入居者とも馴染みの関係を形成されて、安心できる体制になっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実際にターミナル期を迎えた入居者もおられ、家族や職員、医師、看護師と相談しながら方針を決め、連携を取りながら支援しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個々の尊厳を大切にされるよう、職員の接遇教育がされており、丁寧な言葉遣いで対応しています。個人情報については全職員に誓約書を書いてもらっています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課はありますが、個々の生活のペースや意思を尊重し、思い思いに過ごすことできるように支援しています。		

グループホームくのみ坂

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理や後片付けができる入居者は、それが役割となり楽しみとなっています。また職員は入居者と同じ食卓につき、同じ食事を楽しみながら自然にサポートしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や希望に合わせて、入浴できるよう支援しています。現在、夜間の入浴の希望はなく、午前中から夕食前までの間に声を掛けて入浴しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理をはじめ掃除や洗濯などの家事で役割を持ったり、絵を書くことや散歩、花の水遣りなど、趣味としての楽しみごとが日常的に行えるように、個々の好みや生活歴を知り活かしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、散歩に行くことが日課になっており、その日によって少し遠くの公園まで出かけています。また、週に1、2回買い物に出かけたり、行事でも外に出かける機会を持っています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない援助の必要性について職員は理解し、日中はできるだけ鍵をかけていません。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回は消防署から来てもらい、避難訓練を行っています。日中の想定での避難訓練は済んでおり、次回、夜間想定で実施する予定にしています。	○	計画中の夜間想定での避難訓練が実施されること、地域の住人に参加してもらい、協力体制が築かれていくことを期待します。

グループホームくのみ坂

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の病院の管理栄養士が立てた献立であり、栄養のバランスが考えられています。また、食事摂取量、水分の摂取状況をチェックし把握しています。好みに合わせてメニューをアレンジしたり、刻み食やミキサー食など個々に合わせた食事も提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節を感じる飾り付けやカレンダーがあったり、窓際に椅子とテーブルが置いてあったり、落ち着いて過ごすことの空間作りをしています。1日3回掃除をし、大変清潔に保たれており、更に居心地良く暮らせています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し使い慣れた家具等を持ってきてもらえるように話しています。使い慣れたたんすやテレビを置き、写真などを飾りその人らしい居室になるよう工夫しています。		